

## (2) 東北



東北地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

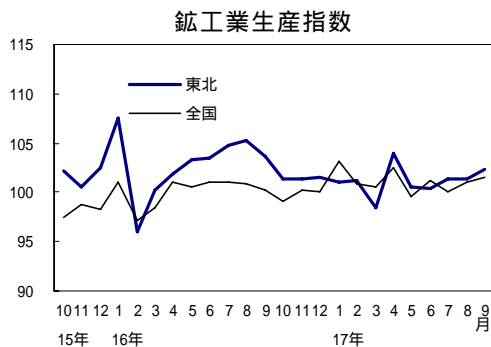
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 8 月）	今回（平成 17 年 11 月）	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電子部品・デバイスは、固定コンデンサ、コネクタ、水晶振動子が好調であり、堅調に推移している。食料品・たばこは、清涼飲料水が関東・関西向けの需要が好調であったものの、冷凍水産食品が振るわず、おおむね横ばいで推移している。情報通信機械は、新機種の携帯電話の生産があったことから増加している。一般機械は、自動車向け金型に加え、薄型テレビ向けのプラスチックの金型も好調だったことから増加している。電気機械は、蓄電池が好調を維持しており、おおむね堅調に推移している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成17年9月の東北は速報値。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

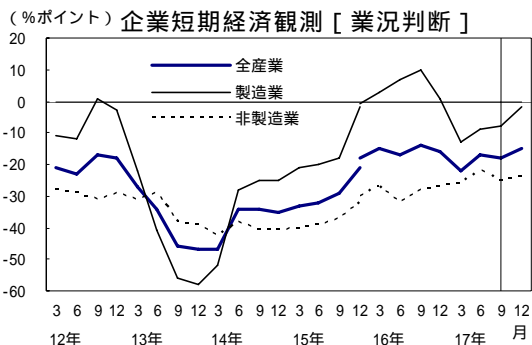
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電子部品・デバイス	19.3	3.2	2.3	1.8	13.0
食料品・たばこ	12.9	3.8	0.3	3.2	3.0
情報通信機械	11.6	6.0	8.8	8.7	24.1
一般機械	8.6	0.3	3.5	3.3	14.1
電気機械	5.8	5.8	1.6	5.0	0.8
鉱工業	100.0	1.4	0.0	0.9	1.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

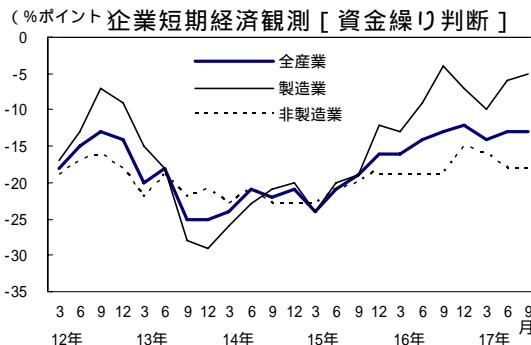
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

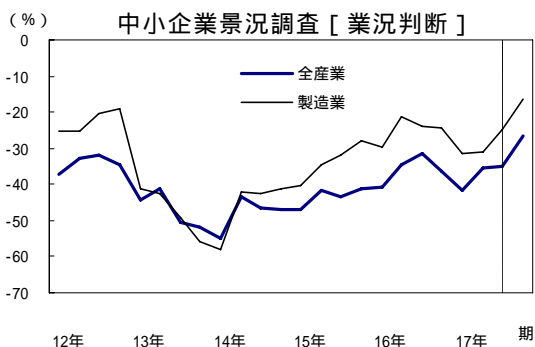
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年12月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

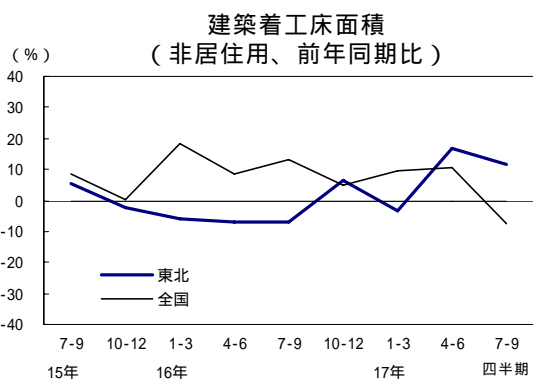
「米国のBSE問題発生以来、牛タンが価格が上がりっぱなしで、今が一番相場の高い状態であり、若干安くなる兆しもあるが、高騰分を売値に転嫁できず非常に苦しい。仮に売値に転嫁できても客離れにつながる(食料品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	5.7	2.4( 6.7)
製造業	12.4	7.8( 13.6)
非製造業	0.8	3.3( 2.8)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。



2. 需要の動向

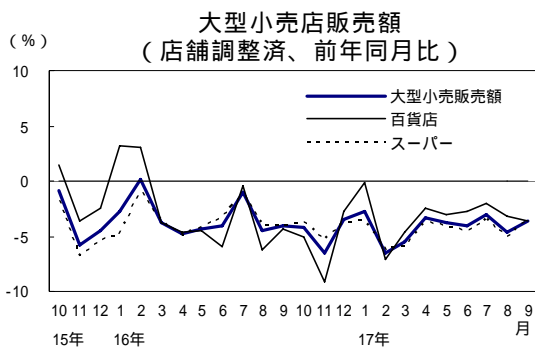
(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、衣料品ではクールビズ効果により、紳士服のワイシャツや靴、ベルト等に動きがみられたものの、婦人関連、子供衣料が振るわないなど、全体としては前年を下回った。8月は、梅雨が長引いたことにより客数が伸び悩み、また月後半は気温が高めに推移したことで秋物の動きが鈍くなるなど全体としては前年を下回った。9月は、気温が高めで推移したことから、引き続き秋物の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東北地区の10月の売上高は、前年同月比で2.0%減となっている。スーパーは、酒や総菜等の飲食料品は好調であったものの、生鮮食料品が振るわず、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

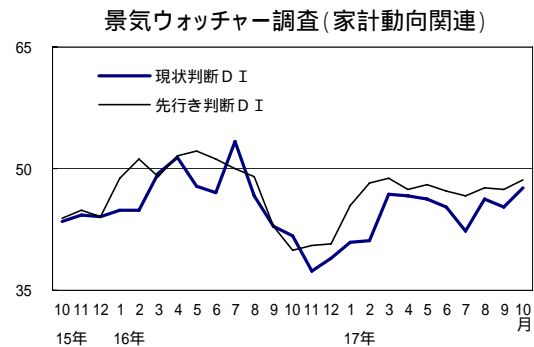
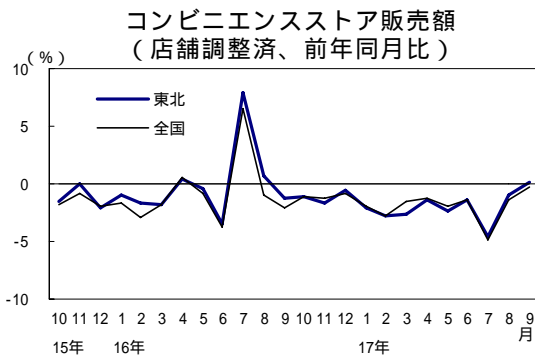
「昨年や、2～3か月前と比較しても確実に良いのだが、思ったほど客足が伸びない。団体の間際予約取り消しが多く、個人の間際予約の増が追い付かない。当初の予想のレベルに達していない状況である(観光型旅館)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	4.6	4.8	3.8	3.8
百貨店	5.4	3.7	2.8	2.9
スーパー	4.3	5.1	4.1	4.0
コンビニ	1.1	2.5	1.7	1.8
景気ウォッチャー	39.4	43.0	46.1	44.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

貸家、分譲が前年を上回ったことから全体でも増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を上回っている。

